

# 公益財団法人日本宇宙少年団 平成30年度事業計画書

## はじめに

昨今、宇宙ビジネスに関連する数々のベンチャー企業の設立が話題を呼び、新しい人材がこれらの活動に参加したり必要とされる時代となりました。宇宙技術がより身近なものとして我々の暮らしに役立つ裏には、多くの人々、国や民間企業等が協力して行われてきているという事実を認識することが大事です。これらの宇宙技術が継承され、継続的に発展させるためには、今の青少年が新たな時代を拓く力をつけていくことだと思っております。新たな時代を拓く力は、青少年が将来の姿を描きつつ、様々な職種の人とかかわる経験を通して豊かな人間性が培われるものと思っています。

一方、東京オリンピック・パラリンピックの開催まで約2年余りとなりました。2020年の国内「宇宙」トピックには、「はやぶさ2」帰還や「H3ロケット」の打上げがあります。更に、2020年に向けたベンチャー企業の数々の取組みも期待されており、青少年に対して、2年後の目標や2年後のなりたい自分をイメージすることができるような公益に資する事業を計画することが大切なことだと思っております。

このことから、平成30年度の「スペースキャンプ」計画は、2020年の宇宙トピックを見据え、専門機関や企業と連携・協力を図って、ヒトやモノや実社会に実際に触れ、かかわり合うことのできるような体験プログラムを展開し、青少年の人材育成に繋げていきます。

そして、これまでも課題となっていた財団の財政基盤を充実するために、可能な範囲で収益事業を行うこと、その事業から得られる収益を公益事業、若しくは公益事業の経営に充当することにより、財政改善を図れるようにしていきます。更に、一昨年から実施している公益法人移行後の日本宇宙少年団分団、特に休団中である分団や各地域の分団活動状況を把握するための調査と実態の把握を継続し、団員拡充への取組等を見直すための基礎情報を取得します。

公益財団法人日本宇宙少年団(YAC)の取組む活動は、YAC指導者の英知と善意をもってその活動がなされており、その活動を賛助下さる関係各位のご理解とご支援により遂行できていることについて、これまで同様、心から感謝を申し上げます。

上記を踏まえ、以下に今年度の各事業における具体的な取り組みを記載します。

## I. 人材育成事業 (公1)

未来を担う青少年に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成を目的に、以下の事業を行います。

### 1. スペースキャンプ事業

2. 情報発信(宇宙教育テレビ、宇宙情報誌等)事業
3. webによる普及啓発事業
4. 将来の特定の活動「2020年宇宙の旅」事業(特定費用準備資金)

## 1. スペースキャンプ事業

### (1) 種子島スペースキャンプ

ロケット打上げ射場のある種子島で宇宙・自然・交流をテーマとした宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習を行います。

宇宙開発に関わる学習では、JAXA種子島宇宙センターの見学や専門家による講義、水ロケットの工作・打上げを行います。自然体験活動では、種子島の歴史や自然に触れ、マングローブやウミガメ学習を通じた環境学習を行います。野外学習では夜に天体観測を行い、都会では見ることのできない無数の星空を体感します。

時期： 8月夏休み(4泊5日)

場所： 種子島

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 30～40名程度

### (2) YAC宇宙レポートin種子島

夏休み、冬休み、春休みの期間中に種子島宇宙センターよりロケット打上げがある場合は、「YAC宇宙レポートin種子島」としてロケット打上げ見学を計画します。

### (3) 筑波スペースキャンプ

JAXA筑波宇宙センターで宇宙飛行士模擬訓練をはじめプログラミング教室(企業協力)、試験施設設備を使った実地体験、専門家による講義など、宇宙開発に関わる学習を行います。

こうした活動を通じて、初めて出会う多様な年齢の仲間と楽しく学びながらコミュニケーションを深めていきます。

時期： 8月夏休み(2泊3日)

場所： JAXA筑波宇宙センター

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 30名～40名程度

### (4) HANEDAキャンプ

羽田空港を拠点に、宇宙航空分野のとりわけ「航空」をテーマにした夏のキャンプを行います。実施プログラムの内容は、「羽田空港」を学びの場としたグループワークや航空分野の専門家によるお話し、フライトシミュレーションで飛行機操縦体験をしたり、将来の航空分野ではどのような研究が進められているのか等、企業の取組みを学びます。

時期： 7月夏休み(3泊4日)

場所： 羽田空港周辺

対象： 小学4年生～中学生の団員及び一般 30～40名程度

### (5) アメリカスペースキャンプ

宇宙開発の本場アメリカ・NASAを訪れ宇宙開発の歴史を学び、NASAの施設を訪問し、NASAで働く日本人研究者との交流を行います。

実施タイトル: スペースキャンプinUSA2019・春

時期： 2019年3月春休み 5泊7日

場所： NASAジェット推進研究所(JPL) カリフォルニア州 他

対象： 小学生～大人の団員及び一般 30名(予定)

## 2. 情報発信(宇宙教育テレビ、宇宙情報誌等)

### (1)宇宙教育TV

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、JAXA宇宙教育センターと連携して番組を制作し、インターネット放送で提供します。本番組では当財団職員が番組司会者となり、宇宙開発の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に分かり易く紹介します。

### (2)宇宙情報誌等

宇宙に関わる様々な分野や研究者の活動紹介、そして宇宙及び科学に関する最新のニュース、新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの宇宙及び科学に対する関心・好奇心を育むことを目的として「宇宙のとびら」の編集協力を行います。この情報誌「宇宙のとびら」をJAXA宇宙教育センター(発行)及び(公財)日本宇宙少年団(編集協力・団員配布)の連携により、年4回(6月、9月、12月、3月)発行し団員及び賛助企業等へ発送します。

### (3)YAC通信の発行

これから予定するイベントの告知や終了したイベントの報告、分団での活動紹介やこれから設立される分団の情報等を年4回(6月、9月、12月、3月)発行し、情報誌「宇宙のとびら」と一緒に団員へ発送します。

### (4)団員への送付物

入団に際し、団員特典として、新規団員は団員証、バッジ、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。継続団員は団員証、パスポート、冊子、YAC通信、付録教材等を送付します。

### (5)団員管理システムの維持管理

財団独自に構築している団員管理システムにより、団員一人一の個人情報の適切な管理に努めます。

## 3. Webによる普及啓発活動

### (1)分団長会議の開催

宇宙及び科学技術を共通の題材とした子ども達の人材育成には全国の分団との連携協力が不可欠です。そのため、全国の宇宙少年団分団との体系的指導や共通した育成方法の下で子ども達に指導する必要があることから、年1回意見交換や交流の場として「分団長会議」を行います。

分団長会議では活動委員会で提案する共通プログラムをwebに公開し、各分団長の参加を促します。

### (2)活動マニュアル等のweb公開

YAC指導員のみならず広く一般に、活動教材集やリーダーのためのガイドブックをwebで公開し、活動の素材提供、安全管理や子ども理解等のノウハウを提供します。

### (3)webを通じたイベントの取組み

財団主催のスペースキャンプやコンテスト、団員のみならず広く一般を対象とするイベントなど、一般を含む各種事業の参加募集や実施結果等をwebを通して公開し、子ども達の宇宙及び科学に関する普及啓発を行います。

#### (4) 講師派遣等

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナーを JAXA 宇宙教育センターと当財団が主催となり、開催地域と連携協力しながら全国で行います。  
また、青少年や一般を対象にその他事業として、イベント等に講師派遣を行い宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を行います。

### 4. 将来の特定の活動(特定費用準備資金)

#### 2020年宇宙の旅

地域に根ざした活動を充実し、同じ目標に向かって成長する全国組織を目指し、目標を達成させるために全体活動プログラムとして「2020年宇宙の旅」事業に取り組み、活動の輪を広げていきます。本ワークショップを通して知識の向上を目指すとともに、開催地周辺の教育団体や先生方にもご参加いただき、学習プログラムなど、宇宙のホンモノを題材としたさまざまな事業への取り組みを充実させます。

時 期：平成 30 年 11 月 23 日(金)～25 日(日)

場 所：福岡市科学館

見 学：九州大学風洞設備、元寇防塁、唐津焼工房

対 象：YAC指導員及び一般(参加プログラムによる)

内 容：

- 1) 宇宙に関わる専門家の基調講演
- 2) 科学館ツアー
- 3) 宇宙教材開発研究発表会

## II. 管理運営等

### 1. 会 員

最近の分団設立減少に加え、団員減少の傾向にありましたが、平成29年度は新規団員が増加となり、少しずつではありますが、事業を実施する際での入団勧誘の成果が見られるようになってきました。また、賛助会員も毎年数件ずつ減る傾向にありますが引き続き将来を担う青少年活動への応援を継続いただけるよう積極的に働きかけていきます。

### 2. 事務局体制

#### (1) 要員

団員管理システムに専任1名(非常勤)を置き、非常勤1名、常勤2名の体制で事務局を維持・運営します。また、事業の内容や業務の繁忙具合によって積極的にボランティア等、臨時のマンパワー導入し効率化を図ります。

#### (2) 寄附金募集の推進

当財団に対する寄附金については、より一層のPR及び獲得に努めます。

以 上